

イワナと溪流釣りに関する意識調査

野崎 英吉 石川県白山自然保護センター

A RECOGNITION ABOUT CHARRS AND ANGLING IN MOUNTAIN STREAMS AMONG PEOPLE FROM THE QUESTIONAIRE METHOD

Eikichi NOZAKI, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

イワナは白山麓の河川に分布する溪流魚であるが、かつては、白山麓のほとんどの河川に分布し、その生息数も多く、地元住民の大切な蛋白源になっていた。近年の各種土木工事による河川環境の改変、奥地林道網の整備、さらに釣りブームによって、釣り客の入りこみ数は増加し、漁獲圧が増大したため、イワナの生息数は激減した。一方、昭和57年には白山麓に漁業権が設定され、その結果、漁業権の設定された河川へは稚魚の放流が義務づけられているため、養殖されたイワナが放流され、在来の系統のイワナとの雑種化が危惧されている。

白山自然保護センターでは、尾添川（蛇谷）の本支流の合計9.0kmの水域の禁漁区（昭和57年4月1日 石川県内水面漁場管理委員会指示）について、溪流におけるイワナをはじめとした水生生物の保護と管理をするための基礎資料を得ることを目的とした尾添川水域水生動物調査を昭和58年度から実施してきた。本調査はこの調査の一環としてイワナと溪流釣りに関する意識と実情を知り、参考資料とするためにアンケートを実施したので報告する。

本文に先立ち、アンケート調査に御協力して頂いた方々、資料を提供して頂いた石川県水産課、直海谷漁業協同組合、尾口・吉野谷村漁業協同組合、白峰村漁業協同組合に対し感謝の意を表します。

調査方法

アンケート用紙は昭和62年9月に、石川県白山自然保護センター中宮展示館のホールに置き、入館者にアンケートの記入を依頼した。アンケートには記入者の住所、性別、年齢、釣歴、職業、アンケート記入者自身について尋ねる項を設けた。次に、アンケート記入者がイワナについての知識を持っているかを知るために、イワナという魚を知っているかどうか、イワナの増減、そしてイワナの食性をたずねた。溪流釣りに関する経験、溪流魚の保護と管理にたいする考えかたを尋ねた。

調査結果

アンケートの総数は110、その記入者の性別は男59名、女46名、不明5名であった。記入者の住所は県内63名、その他44名、記入無しが3名であった（表1）。

イワナについての知識

イワナについての知識を知る項では、96名（86.3%）がイワナを知っており、知らないと答えたのは6名（5.5%）無回答は8名（7.3%）であった。また、イワナが増えていると思うと答えた者の数

表1 アンケート記入者の住所地地

記入者の住所地	人数	記入者の住所地	人数	
石川県内	63	石川県外	44	記入なし
金沢	37	岐阜県	8	3
小松	9	大阪府	8	
野々市	6	富山県	7	
吉野谷	3	福井県	5	
鶴来	2	愛知県	5	
辰口	2	三重県	3	
加賀	1	東京都	3	
七尾	1	山形県	1	
根上	1	岡山県	1	
白峰	1	奈良県	1	
		兵庫県	1	
		京都府	1	

は、14名 (12.7%)、増えていないと思うと答えた者は82名 (74.7%)、無回答14名 (12.7%)であった。

さらに正確な知識を持ちあわせているかどうかを知るために、イワナの食性について、9項目のうちから正しいと思われるものすべてを答える問いでは、誤った回答 (鳥、水中の藻、木の実) は26 (総回答数のうちの14.2%) と少ない。正解のうち、回答率の高かったものは、水中の昆虫63 (57.3%)、次いで昆虫と半数以上の人々が正しい知識を持っていることが分かった。

溪流釣りについて

アンケート記入者のうち42名 (39.1%) が溪流釣りの経験があった。一年間に釣りに出かける回数は1-3回が最も多く経験者のうちの38%、次いで4-6回が8名であった。また、一年間に22回以上溪流釣りに出かける人が、回答者のなかに4名含まれていた。溪流釣りに行く人数は2名が最も多く14名、次いで1名が13名、3名で行くというひとは9名と、3名以下の小人数で溪流釣りに行くことが分かった。

溪流釣りに行く谷は、石川県内の人々は手取川上流が多く11名、次いで直海谷川7名、犀川、浅野川、大日川の順であり、県内の釣り人の殆どが県内で釣をしていることが分かった。

釣られた溪流魚の大きさは、イワナは26-30センチ級が最も多く、最大は36-40センチであった。ニジマスでは41センチ以上のものも見られた。アマゴは21-25センチ級のものがおおく、最大は25-30センチ級とイワナにくらべると小ぶりであり、ヤマメもアマゴと同様の結果であった。

溪流魚の保護と管理について

「イワナなどの溪流魚は保護すべきだと思いますか」という間にたいして、「はい」と答えた人は77名 (70.0%)、「いいえ」は5名 (4.5%)、無回答28名 (25.4%) と殆どの人々が保護すべきと考えている。

保護の方法としては、禁漁、休漁区を設けるが最も多く44名 (57.1%)、次いで、川の維持水量を確保するが25名 (32.5%)、以下魚道等の施設を作る23名 (29.9%)、入漁者の制限をする21名 (27.3%)、もっと溪流魚の放流をする19名 (24.7%)、その他9名 (11.7%) の順であった。その他と

しては、家庭からの排水を流さない、キャッチ・アンド・リリースを全ての大きさの魚に徹底する。違反した者に対する罰金を多くする、樹木の伐採の制限、などであった。

考 察

イワナの生息する山村では、イワナは昔から動物性蛋白源として重要な位置にあったが、国民の大多数を占める多くの都市住民にとっては、たまに訪れる山村、山麓の旅館で食卓に出される馴染みの薄い魚であり、むしろ物珍しい魚であった。

石川県内では尾口村深瀬の坪田一氏によって初めてイワナのふ化養殖が成功し、昭和44～45年からイワナの種苗生産が軌道にのようになった。石川県内のイワナの種苗生産経営体数は民間が18、公営が1の合計19の経営体が年間65万トン（昭和62年度石川県水産課調べ）の生産に当たっている。このうち河川への放流種苗は僅か約16万5千尾（5グラム換算で800kg）であり、生産量のほとんどが旅館や民宿、料理店などに鮮魚として供給されていることがうかがいしれる。最近では山中、粟津などの温泉地をはじめ、白山麓のスキー場や温泉でも、イワナの尾頭付きが加賀地方の味として出されることが多くなった。鮮魚として一般市場に出ることはないが、旅館、料理店などで献立として出されるため、観光客の増加とともに以前に比べると馴染の深い魚になってきているといえよう。一方では、人々の自然や釣りなどにたいする関心や興味も高くなり、動物クイズ、観光案内、釣情報、登山ガイドなどのテレビ番組、出版物からイワナ等溪流魚に関する情報量も格段に多くなっている。今回のアン

表2 白山麓漁業協同組合のイワナ放流尾数

単位：尾

河川名	事業主体	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年
手取川 (内共22号) (牛首川等)	白峰村漁協	5,700	28,500	36,000	38,950	25,000
手取川 (内共20号) (下田原川)	白峰村漁協	500	4,500	8,000	6,030	3,000
手取川 (内共21号) (赤谷川)	白峰村漁協	1,100	9,500	10,750	6,500	4,000
手取川 (内共23号) (大嵐谷川)	白峰村漁協	500	5,000	2,000	2,400	2,000
手取川 (内共24号) (小嵐谷川)	白峰村漁協	290	3,000	2,000	2,400	1,000
手取川 (内共19号) (御坊谷川)	尾口・吉野谷	3,000	4,000	4,000	4,000	4,000
手取川 (内共18号) (尾添川)	尾口・吉野谷	18,000	26,000	24,000	24,000	23,000
手取川 (内共17号) (瀬波川)	尾口・吉野谷	10,000	22,000	14,000	14,000	11,000
手取川 (内共16号) (直浜谷川)	直海谷川漁協	10,000	22,300	25,500	24,000	14,000

昭和62年石川県水産統計指標

ケート結果からも87%の人がイワナを知っていると答えており、食性などイワナの習性についての知識もかなり正確であったことは、このあらわれであるといえよう。

白山山麓の白峰、尾口、吉野谷、河内の4村では昭和58年から漁業権が設定され、白峰村漁業協同組合、尾口・吉野谷村漁業協同組合と直海谷漁業協同組合が設立された。これら3漁業協同組合が漁業権をもつ水域はイワナ、ヤマメ、カジカが豊富で、かつては専業漁師もいた。各漁業協同組合は遊漁者に対して遊漁券の購入を求めるとともに、積極的な種苗の放流を行なっている(表2)。各漁業

表3 白山麓3漁業協同組合の遊漁券販売枚数

漁業協同組合	年度	59年度	60年度	61年度	62年度
白峰村漁協	年券	215	243	266	310
	(子供)	3	0	4	3
	(協力券)	243	317	331	593
	日券	395	654	579	825
	(子供)	24	15	11	9
	合計(年券)	461	561	601	593
	合計(日券)	419	669	590	834
尾口・吉野谷 漁協	年券	144	149	137	141
	(子供)	0	0	0	0
	日券	126	168	155	151
	(子供)	0	0	0	0
	合計(年券)	144	149	137	141
	合計(日券)	126	168	155	151
直海谷漁協	年券	313	359	363	409
	(子供)	12	10	0	6
	(特別券)	1	0	1	1
	日券	499	442	427	655
	(子供)	23	55	31	19
	合計(年券)	326	369	364	416
	合計(日券)	522	497	458	674

協同組合とも遊漁券の販売数は増加している傾向にあり、遊漁者数も順調に伸びている（表3）。アンケートにおいても溪流釣りへ行く河川名で、手取川上流の谷が上位に挙がっていることと一致している。

イワナを保護すべきとの回答は70%と多く、方法やその程度の差こそあれイワナがなんらかの形で保護されるべき対象と多くの人々は考えている。しかし、ここで保護されるべきイワナとはどのようなものなのか、またその保護の目的、さらに保護を必要とする状況とは何なのかを論議しておく必要がある。

Summary

Information from people's knowledge about charr and consciousness about charr conservation was obtained through a questionnaire. One hundred and ten visitors on September 1987, replied submitted to and filled out the questionnaires at the Chugu Museum, Hakusan Nature Conservation Center.

Ninety six people (86.3%) know Iwana charr, and 82 people (74.7%) had correct knowledge, about the distribution and the population trend of charr in Japan. Only 26 people (14.2%) mistook, about the food habits of charr, more than half of people found exact answers to the question, 42 people (39.1%) were experienced in fishing charr.

Seventy seven people (70.0%) supposed that charr and other masu salmon in mountain streams had to be conducted some conservation. Of the methods for the charr conservation, establishing a no-fishing area and closed fishing area were endorsed by 44 persons (57.1%), securing the water level for maintaining a aquatic life (32.5%) were endorsed.

イワナおよび溪流魚と釣についてのアンケート

石川県白山自然保護センターでは、昭和60年からイワナ等の水生動物の調査をしております。今後の研究の参考とするため、御意見をおきかせ下さい。

つぎのいずれかに丸印をお付けください。

住 所	金沢市 川北町 河内村	松任市 美川町 吉野谷村	小松市 辰口町 鳥越村	加賀市 津幡町 尾口村	野々市町 内灘町 白峰村	鶴来町 根上町 その他 ()	山中町
性 別	男	女					
年 齢	6~9 41~45	10~15 46~50	18~20 51~55	21~25 56~60	26~30 61~65	31~35 66~70	36~40 71~
釣 歴	0 1~3	4~6	7~9	10~12	12~15	16~18	19~21 22~
職 業	会社員 (事務係・技術系・その他) 自営業 (販売流通・製造・サービス・その他専門職), 教員, 農業			公務員 (事務係・技術系・その他)			

イワナについて

1. イワナという魚を知っていますか。 はい いいえ
 2. イワナは増えていると思いますか。 はい いいえ
 3. イワナは何を食べていますか。(正しいと思うものに丸印を付けてください)
- | | | | | |
|----|-------|------|-----|-----|
| 魚 | 水中の昆虫 | 鳥 | へビ | カエル |
| 昆虫 | ネズミ | 水中の藻 | 木の实 | |

溪流釣りについて

1. 溪流釣りをしたことがある ある ない
2. 溪流釣りに行く回数は年に何回ですか。

0	1~3	4~6	7~9	10~12	13~15	16~18
19~21	22~					

3. 溪流釣りに行くときは何人でいきますか。

1人	2人	3人	4人	5人以上
----	----	----	----	------

4. よく溪流釣りにいく谷はどこですか。

犀川上流	浅野川上流	
手取川上流 (牛首川, 大道谷, 赤谷, 下田原, 大嵐, 尾添川,)		
大日川上流,	直海谷	
梯川上流	大聖寺川上流	動橋川
福井県 ()	川上流) 岐阜県 ()	川上流) 富山県 ()
川上流)		川上流)

5. 1日で最高何尾釣れましたか。

0	1~3	4~6	7~9	10~12	13~15	16~18
19~21	22~					

6. これまでに釣った最も大きな魚はどのくらいですか。

イワナ	15~20	21~25	26~30	31~35	36~40	40~
アマゴ	15~20	21~25	26~30	31~35	36~40	40~
ヤマメ	15~20	21~25	26~30	31~35	36~40	40~
ニジマス	15~20	21~25	26~30	31~35	36~40	40~

イワナ等溪流魚の資源の保護と管理について

1. イワナ等の溪流魚は保護すべきだと思いますか。 はい いいえ
- 「はい」と答えた人だけつぎの問いに御答え下さい。
- それではイワナ等の溪流魚の保護のために何をすれば良いでしょうか。
- | | |
|-------------------------|----------------|
| ア. 禁漁区, 休漁区を設ける | イ. 入漁者数を制限する |
| ウ. 河川の改修にあたっては魚道等の施設を作る | オ. 川の維持水量を確保する |
| エ. もっと溪流魚の放流をする | |
| カ. その他 | |
- ()

アンケートに御協力ありがとうございました。

石川県白山自然保護センター